

なかがみ

第157号

編集と発行

中部農業改良普及センター

〒904-2155 沖縄県沖縄市美原1丁目6番34号

(沖縄県中部合同庁舎2階)

電話 098-894-6521

FAX 098-937-2502

中部地区から5名の新たな農業士が認定されました！



左から瑞慶覧氏、知花氏、朝比奈氏、金城氏、新垣氏

沖縄県では、将来の地域農業を担う先進的農業経営者の育成並びに女性の主体的社会参画を促進するため、「青年農業士」、「指導農業士」及び「女性農業士」を認定しています。

令和8年度は中部地区から青年農業士1名、指導農業士4名が新たに認定されました。

●青年農業士 新垣 淳悟氏 (沖縄市・花き)

青年農業者のリーダーとして後輩の育成や組織活動の活性化に尽力している。また、食育および花育活動にも積極的に取り組み、地域や児童生徒の農業への理解促進に貢献されている。

●指導農業士 金城 将也氏 (うるま市・野菜)

青年農業者のリーダーとして組織活動を牽引するとともに、青年クラブ員の勉強会の講師や視察研修の受け入れを積極的に行い、地域の担い手育成に貢献されている。

●指導農業士 知花 貫徹氏 (読谷村・花き)

優れた農業経営を展開するとともに、組織活動への積極的な参画及び研修会や情報交換の場づくりを通じて地域生産者の技術向上に大きく貢献し、地域農業の発展に尽力されている。

●指導農業士 朝比奈 大地氏 (読谷村・さとうきび)

新規就農者向け農業機械講習会の講師を務め、後継者育成や技術継承に積極的に取り組んでいる。また、さとうきびの生産振興活動を通じて、地域農業の発展に大きく寄与されている。

●指導農業士 瑞慶覧 朝邦氏 (北中城村・野菜)

土づくりに注力した高い技術で高品質な農産物を生産している。また、農業研修生の受け入れや就農希望者の視察受け入れを積極的に行っており、若手の育成に尽力されている。

九州・沖縄地区青年農業者会議にて、本県代表として発表！

令和8年度九州・沖縄地区青年農業者会議が7月8日から9日にかけて開催され、中部地区農業青年クラブ連絡協議会から喜友名朝士氏と與那嶺直樹氏の2名が本県代表として登壇しました。

喜友名氏はプロジェクト発表の部（園芸・特産物部門）において、「ピーマンの最適な栽培管理を目指して」と題して、環境制御や水管理によるピーマンの収量向上の取組を発表。與那嶺氏は意見発表の部において、「リュウキュウガネブと歩む、農福連携で生み出す新しい価値～南の風と共に、リュウキュウガネブから始まる夢～」と題して、沖縄在来ぶどうでのワイン作りの夢や、農福連携で生まれた仲間との絆について熱く語りました。

惜しくも受賞は逃しましたが、九州の強豪が集う大舞台での発表や他県農家との交流を通し、両氏とも新たな気づきを得て今後の活動への意欲をさらに高めていました。



農産物の魅力を活かした商品づくりをサポートします

当普及センターでは、地元の農産物を活かして特産品づくりに挑む農家や創業者の皆さんを対象に、商品開発から販路開拓まで幅広くサポートしています。今回は、昨年度に支援を行った取り組みの中から、魅力あふれる2つの商品をご紹介します！

1、『島の恵みのキャロットケーキ』（ウイングアーク1st株式会社）

専門家との伴走支援のもと、品質表示や製造工程の見直しによる管理体制の強化と、生地配合改善に取り組みました。自社産のニンジンやリュウキュウガネブを生かした「島の恵みのキャロットケーキ」を開発し、「2026 おきなわ島ふ〜どグランプリ」で見事最優秀賞を受賞。同社の主力商品として着実に成長しています。

2、『パイナップルケーキ』（株式会社 Turf&Sports Entertainment）

地域の規格外パイナップルや連携する植物園の強みを活かした商品開発に向け、専門家とともに伴走支援を行いました。適正な価格設定や原価計算をはじめ、商品の独自性を高めるネーミングやパッケージデザインの検討を実施。あわせてキッチンカーを活用した実演販売の演出手法や品質管理体制の整備を進め、本格販売に向けた魅力ある商品づくりに取り組みました。



～ 認定農業者制度について～

認定農業者になって自らの経営課題を把握・整理し、
目標とする改善方向に向けて取り組みましょう！



●「認定農業者制度」とは？

「もっと効率よく、安定した農業経営を目指したい！」という農業者を応援する国の制度です。

●「認定農業者」とは？ どんな人がなれるの？

経営改善計画の目標達成に向けて、5年後を目標年とする「農業経営改善計画」を作成し取り組む農業者のことで、個人・法人は問いません。申請の際には「**農業人材育成プログラム（初級）**」の受講をお願いします。下記、農林水産省のHPにYouTubeが掲載されています。ご参照ください。

https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_seido/seido_ninaite.html



●複数の市町村、または複数の県で営農し認定されたい時は？

県内の複数市町村にまたがって営農する場合は県が認定を行い、農業改良普及センターが申請窓口となります。複数の県にまたがる場合は国（地方農政局）が認定を行います。いずれの場合も国・県から関係市町村へ意見聴取を行います。

●「農業経営改善計画」には、どんなことを書くの？

市町村の「基本構想」に照らして適切な、経営改善を達成する取り組みについて記載します。

- ① 経営の現状と5年後の目標（所得、経営規模、労働時間、農地や施設の状況等に係る目標）
- ② 目標達成に向けた取り組み内容（生産方式や経営の合理化、働き方、その他経営改善の取組）

●認定されたら、どんなメリットがある？

認定農業者が経営改善計画を達成するための支援策（各種補助事業や融資など）を受けられます。一定の要件を満たすと、農業者年金保険料の国庫補助の対象になります。

●夫婦や親子でも認定を受けられるの？

「**家族経営協定**」を結んで共同経営者になれば、夫婦や親子などでの共同申請が可能です。

●認定されたあとは？

作成した「農業経営改善計画」に基づき計画的に営農に取り組みましょう。認定3年目が、中間年に当たります。計画の進捗を確認しましょう。また、認定の期間は認定日から5年間で、**自動更新ではありませんので注意しましょう。**

最終年にはすみやかに再認定を受け、新たな目標を立てステップアップを図りましょう！

くわしくは、農業改良普及センターまでお気軽にお問い合わせください！



マンゴーコンテスト：中部地区から2点が入賞

～第19回（令和8年度）沖縄県マンゴーコンテスト～



沖縄県農業協同組合代表理事理事長賞
優秀賞 新城麻衣子さん（北谷町）



沖縄県果樹フェスティバル実行委員会会長賞
新人賞 糸数 昌睦さん（沖縄市）

第19回（令和8年度）沖縄県マンゴーコンテストを、7月9日に行いました。例年は審査翌日に表彰式を開催するところですが、今期は、台風9号の影響を考慮し延期して、1月31日開催予定の「おきなわ花と食のフェスティバル」品評会表彰式と合同で行う事となりました。

コンテストには、中部地区から10点の出品があり、北谷町の新城麻衣子さんが優秀賞、沖縄市の糸数昌睦さんが新人賞と2点の入賞がありました。

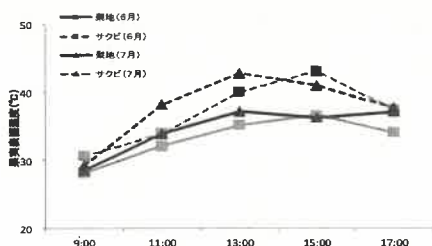
今期は、秋口の高温、肥大型の長雨、台風襲来等かなり厳しい気候条件の中、また、審査が中部地区の出荷が少ない時期に当たるなど不利な面もありましたが、出品数は全体の2割を占め、出品した果実いずれも高品質であったことは、評価されております。収穫を終え一息ついている方が多いかと思いますが、次年度の高品質果実生産に向けしっかり取り組んでまいりましょう

マンゴーの収穫を終えて（猛暑を振り返り）

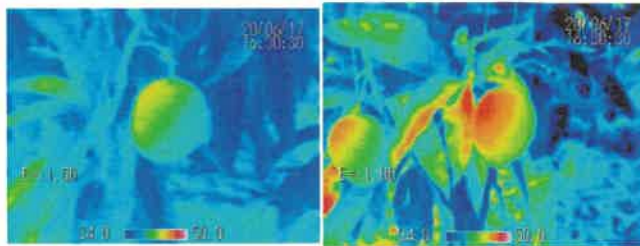
今期もマンゴーのシーズンが無事？終了しました。生産者の皆様は、大変お疲れさまでした。年々暑さが増しているように感じますが、今期は「日焼け果」の発生が多く見られました。日焼け果は、高温はもちろんですが、樹体の水分不足、袋掛けの遅れ等多くの要因から発生します。今回はその対策として、令和5年度に農業研究センター石垣支所から報告のあった「散乱光フィルム」を紹介します。要約すると「八重山地域のマンゴー栽培で利用される散乱光フィルム（梨地）は、一般的に利用されているサクビフィルムに比べ、果実や葉面の温度が低くなり日焼け果の発生軽減効果がある」といった内容です。詳細は、沖縄県農研センターHPから「研究成果」→「普及に移す技術」→「果樹（R4～）」のページの令和5年度「八重山地域で利用されている散乱光フィルム・・・」を確認ください。同ページには他の情報もたくさんありますので興味のある方はご確認を。



農研HP ↑



フィルム資材別果実表面温度の変化



散乱光フィルム（梨地） サクビフィルム
サーモグラフィーによる果実表面および葉面の温度分布